

クあり、吾々の為さんとする心構は茲にあると云はなければならぬ。日本の急激なる文化の発達に幾多の矛盾と害悪を発見すると同時に、此れ等の線に添って発達し経過して来た。日本、労働運動並に農民運動は是を幾多の誤りを犯して来た。

今工場に、礦山に、農村に、海上に、幾多失業苦にまた生活苦に悩まされ、倒れつゝ行く同胞に、何等実質的救済をなし得ないのが、日本の労働運動の現状である。是れは單に、政府、企業家の無関心、無慈悲、強圧を以つてのみ、日本の労働運動の無力を律する事は出来ない。元來日本の労働運動は労働者自からの要求に依つてなされ、指導に依つてなされ、思想的支配された事実が多分にあつた。欧米追随の運動であり、唯物主義の範疇から一步も出て居ない、功利的な立場に立って権利を主張し、自己の本分を盡す事を良くしない、相手の不信をのみ責める事に熱中して、階級対立、階級闘争を事として居た。當然これ等の動向は不道義な、非産業、非祖國的な、日本の國情、國

民性に相合らぬ運動に墮して仕舞つて居たのである。無論、企業の方針も左様であつたと云い得る。即ち、労資の立場は外道を歩んで来たのである。此の不道な運動が發展したとて、真に労働者の力なり得る事が出来ないのは當然と云はなければならぬ。

本大會の使命は實に日本の労働運動の道義的確立と、愛國精神の高揚即ち、日本主義労働運動の採用にあると信する。

今や何等の躊躇することはい許さない。過去の誤りは断乎精算し、産業人としての自覚を徹し、其の使命の遂行に邁進しなければならぬ。

全日本の労働者諸君!!

茲に吾が東京聯合會大會は産業人として、

一は祖國日本の非常時に答へ

一は日本の労働者として真に労働者の味方たうんとするものである

即ち祖國日本の繁榮なくして、何ぞ、日本の労働者の幸福あらんとの心構へである。